■2246人の参加、391カ所の観察が集まった「みんなで夏の川さんぽ」 自然しらべ2010

4回目となる川の自然しらべは、これまでしらべ てきた川の様子に加えて、川原で暮らす昆虫たち や外来の植物にも注目しました。その結果、ハグ ロトンボが都市部で復活しつつある半面、外来種 のミズヒマワリの分布が拡大するなど、川原の生 きものの分布が変化していること、また川の様子 からは、非常に汚い川ととてもきれいな川が減り、 普通の川ばかりになってきたなど、川の自然が大 きく変化している現状が明らかになりました。



2010年度の主な成果

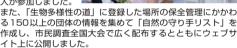
あなたのご寄付やご支援で 2010 年度、NACS-J は全国で このような自然保護活動ができました!

■市民が五感でとらえた地域の生態系サービスを把握・市民調査の活性化を推進 生物多様性の道プロジェクト

生物多様性条約COP1Oの機会に、地域の生物多様性 保全を促す活動を実施しました。「市民による五感でと らえる地域の生物多様性・生態系サービスモニタリン グ」では、全国約150地域の活動団体からデータが寄 せられ、日本の生物多様性と生態系サービスの一面が 明らかになりました。

各地での保全のための市民調査の活性化を目的に、初 の市民調査全国大会を7月3-4日に東京で開催し、全

国からのべ約300 人が参加しました。



北海道のサンル川・群馬県のAKAYAプロジェクトエリア・徳 島県の吉野川・熊本県の川辺川で自然保護の現場を訪ねる「も り・かわ・うみ・生きものバンザイ!ツアー」を催行しました。



■"誰も教えてくれなかった"自然の守り方を解説 自然保護セミナ-

自然保護にかかわる法律や制度などのしくみを、上手 く使うことで守られる自然が増えています。どのよう なしくみがあって、どのように各地でそれを利用して いるか、をNACS-Jが取り組んでいる保護の現場の話 題を中心に紹介しました。のべ280人の参加があり ました。



■19件の国内外の研究・活動に助成 プロ・ナトゥーラ・ファンド

(財)自然保護助成基金との共同事業として、第21期は国内助 成17件と海外助成2件に合計1972万円を助成しました。また、 第16回(2009年度)助成成果発表会では、ポスター発表と 口頭発表を実施したほか、第19期(2008年度)助成成果報 告書を発行し、配布を行っています。

■風力発電所マップ・生物多様性の道プ ロジェクトの登録地を公開

SISPA(戦略的保全地域情報システム)

生物多様性の道プロジェクトの登録地や全国の風 力発電所MAPなどの基礎データ、綾の照葉樹林 プロジェクトのこれまでの調査の解析結果などを、 SISPAウェブサイトで公開しました。活動の結果

SISTPACE

を、GoogleEarthとレ ポート形式で見ること ができます。また、日 本の保護地域の情報、 動植物の分布のデータ をGIS(地理情報シス テム) などとして蓄積 したデータベースの公 開を始めました。

■全国10カ所で「水辺の外来種 しらべ 開催

生きもの情報館

水辺の外来種しらべを全国10カ所で 実施、NTTデータの社員と家族、のべ 230名が参加し、190件の外来種の データを集めました。2010年度には 北海道から沖縄まで約8000件のデー 夕が蓄積され、広く利用されました。ま た、2011年度より携帯からの投稿に



ため、リ ニューア ルの準備 を行いま した。

対応する

■日本初! 生物多様性保全+市民参加型の 森林計画を発表

AKAYAプロジェクト

首都圏の水源・利根川上流の1万haの国有林「赤谷の 森 | で、生物多様性保全と持続的な地域社会の構築を 目指して、地域住民、林野庁、NACS-Jの3者協働で森林管理に取り組むプロジェクトです。2010年度は 過去7年間の科学的なモニタリングの成果を基に市民 参加のプロセスにより、国有林の管理計画(赤谷の森 管理経営計画書)を決定しました。



■全国で603人が新たに誕生 NACS-J自然観察指導員

市民団体、自治体、企業と共催・協力して、講習会を 全国で11回開催しました。新たに603名の指導員が 誕生し、登録者は2万5000人を超えました。また、 研修会「冬の自然観察手法を学ぼう」や「ネイチュア・ フィーリング」を開催しました。全国一斉自然かんさ つ会では、全国の指導員が開催する生物多様性に関す る観察会情報152件を集め、ウェブサイトや新聞な どで生物多様性の担い手としての指導員の活動をPR

■母島・南島で地形や土壌、植生、外来種 の調査から保全提案

小笠原プロジェクト

地史的な観点からの環境区分 分析を基に、各種保全・再生 事業がより効果的になるよう 提言を行いました。父島に続 き、母島でも解析をし、両島 の自然の個性の違いが分かり ました。今回の結果が基礎資 料として活用されるよう働き かけを行いました。南島モニ タリング調査では、クマネズ ミの排除に向けた具体的な検 討が進められ、駆除前後の自 然変化を監視し続けることを 提案しました。



活動クローズアップ



■データ件数は40万件を突破! 全国の調 査サイト間の交流でアイディア共有

ニタリングサイト1000里地調査

全国規模での調査も3年目を迎え、データ件数は 40万件を突破しました。各地の調査サイトでは 調査成果を地域で発表したり保全のための管理作 業に役立てたりと自主的な取り組みが進んでおり、 NACS-Jも事業紹介用のポスターなどの広報ツール を作成したりデータを国の重要地域選定に役立てた りと各サイトの支援を進めました。また、初めてと なる「サイト間交流会」を開催し、調査員間のノウ ハウやアイデアの共有を進めました。



■調査データで生物多様性の豊かさをアピ ール、日米合意V字案・I字案への問題指摘 辺野古・大浦湾海域の保護活動

普天間飛行場の移設先としていったん外された辺野 古案。しかしながら代替地が見つからず最終的に辺 野古に戻ってきてしまいました。それを受け、埋め 立てによる影響が大きい海草藻場を中心に「辺野古 の海の緊急調査」を行いました。その結果、サンゴ 礁生態系として豊かであるということを改めて確認 することができ、やはりこの海域に基地建設するべ きではないとさまざまな場で伝え、活動の支持を得 てきました。

■調査で海草藻場やサンゴの消失を 指摘、事業の中止を要請 泡瀬干潟の保護活動

工事前から毎年実施している海草藻場やサンゴ 群集のモニタリング調査を実施しました。調査 結果から、本格的な埋め立て工事実施後に起き ている砂州などの地形変化、浅場への土砂の堆 積、海草藻場やサンゴの消失を指摘、事業の中 止と原因の究明、干潟の保全措置を求める要請 を行ないました。また、現地でこれら問題点を 共有するためシンポジウムを実施しました。



■保護地域の新設と拡大を国や自治体の委員会に提案 保護地域の保全管理方策の策定

現実に自然を保護し、地域ごとの自然性を確保するには、保護 地域に指定し保全管理が行われるようにしていくことが大切で す。国の制度による新設や拡大を政府に働きかけ、積極的なメ ンバーの委員会をつくり、地域の人々の考えと科学的根拠を重 ね合わせて地域案をつくっていきます。拡大できたのは、日本 最大の保護地域となった大雪・日高山脈(北海道・右写真)、2 倍以上の面積に保護区を拡大した西表島(沖縄県)など。今年 度も続くのは、奄美群島の奄美大島・徳之島への森林生態系保 護地域の設定(鹿児島県)や、富士山・丹沢の緑の回廊(静岡県、神奈川県)の、シカによる自然植生の喪失の防止、生物多様性維持の方策づくりなどです。これは全国で必要とされてお り、最大の課題は担い手づくりです。



■重要決議・愛知ターゲットへの意見表明、CBD市民ネット運営に邁進 生物多様性条約COP10への参画



生物多様性条約COP10に向けて、専門会議、国連総会 への参加を通じて情報を収集し、国内外のNGOとの連 携を築きました。COP10直前に「COPに参加する団 体への政策提言ガイダンス」を開催、期間中はCOP10 の議論に向けたNACS-Jの基本的な考え方をまとめたポ ジションペーパーの発表や、活動展示、ブログなどで発 信を行いました。COP10後は、その成果を紹介する会 報やレポート「NACS-Jから見たCOP10の成果と今 後の課題」をまとめました。IUCN-Jの事務局運営や、 CBD市民ネットの東京事務局調整役などCOP10に向 けたNGO 活動の基盤を支えるとともに、COP10の全体会合では、市民セクターからの声明文を読み上げると いった政策提言活動も行いました。

■COP10イベントで1万3000人に和文・英文で配布 くらしと自然のつながり再発見!

私たちが生活の中で恩恵を受けている「こと・も の」をひとつずつテーマに取り上げ、それがどんな 自然に育まれたものなのか、ルーツを探っていくプ ロジェクト。各地の「自然のつながり物語」を会報 「自然保護」とウェブサイトで連載、インタビュー や専門家の解説記事を加えたオールカラーの和文版 と、英文の抜粋版の小冊子を制作。COP10関連イ ベントやCOP 10会場の国際会議場内とNACS-J展 示ブースで、国内外の方々に配布しました。



■市民参加で調査、ユネスコエコパークへの登録を支援 綾の照葉樹林プロジェクト

自然林へ復元するための間伐を実施する予定の人工林で、市民参 加の林床植生調査を行いました。調査の結果はSISPAの綾の照葉 樹林のサイトに登録し誰でも結果が見られるようにしました。綾 町で実施したヒアリング調査の結果に基づき「宮崎県綾町の過去 50年間の生態系サービスの変化とその要因」を発行しました。綾 町のユネスコのMAB(人間と生物圏計画)の生物圏保存地域(ユ ネスコエコパーク)への登録に向けて申請書の作成準備を行いま した。綾町古屋地区で地域住民とともにふれあい調査を実施し、 地域の人と自然のふれあいの記録集を作成するためのデータ整理 を行いました。



■自然エネルギーだからといって、安易な環境アセスメントにしてはならない 風力発電所建設・環境影響評価法への提言



化石燃料や原子力発電といった、政府と大企業が税金投入を前提として行 う大規模な発電方法から、人が制御でき生物多様性と両立する安全で安心 な自然エネルギーに変えていくことは、世界の趨勢になりました。しかし 自然エネルギーといえども、中央だけで計画する大規模なものを乱立させ ては、地域の自然性をなくすものになります。特に風力発電や地熱発電は、 事業者の考えだけによる環境調査でなく、国の審査や地域からの意見を取 り入れられる、法律に基いた環境影響評価(アセスメント)が必要です。 これらを衆議院環境委員会での参考人、環境省の検討委員会でのプレゼン テーションを行い、マスメディアへの解説を続けています。

NACS - J決算レポート (2010年4月1日~2011年3月31日)

昨年度もNACS-Jの活動をご支援いただき、誠にありがとうございました。以下に概要を報告します。

■ 収益(収入)

2010年度の決算は右の表の通りです。主に受託 事業収入と助成金の減少により、収益全体で昨年比や や減少となりました。予算通りの収益を上げることは できませんでしたが、費用も節約するなどして予算を 下回ったため、全体としては予算での赤字幅を減少さ せた決算となりました。

基本財産の運用益は、本来財団法人の主たる財源で すが、満期・償還分が低い金利となり、昨年を下回り ました。リスクのない範囲でできる限りの運用を図っ ています。

会費は収益の31%、寄付金は17%と、収益の半 分を占めています。独自の活動を進めるため、活動の 理解・支援者を増やすための大事な柱と位置づけてい ます。しかし長年ご支援いただいていた個人会員の高 齢化による退会が増え、団体・賛助会員については、 経済情勢の悪化や、地方自治体における負担金見直し の動きにより、減少傾向が続いています。

寄付金については、特定の事業に対する企業からの 寄付が増えた一方で、一般個人からの寄付が減少して います。2011年度は会の知名度を高め、支援しが いのある事業を増やすことにより、会員や寄付者の拡 大に一層努める方針です。

■ 費用(支出)

NACS-J の公式決算では、公益法人会計基準に沿っ て通信運搬費や会議費といった科目ごとの数字で出さ れています。ここでは活動の内容を分かりやすくする ため、事業目的ごとにまとめ直しました。

NACS-J では収益を自然保護のために最大限有効 に使っています。その結果2010年度は、費用の 94.8%を事業費として、5.2%を法人運営のための 管理費として支出しました。

保護プロジェクト事業の主な支出は AKAYA プロ ジェクト、辺野古・大浦湾と泡瀬干潟の保護活動。保 全研究事業では里やまモニタリングと綾プロジェク ト、SISPA。教育普及事業では自然観察指導員養成 と自然しらべ。広報・編集事業は会報『自然保護』の 制作・発送費とウェブサイト運営、広報でした。

受託事業は保護プロジェクト事業と保全研究事業に 含まれています。AKAYA プロジェクトや小笠原プロ ジェクト、モニタリングサイト 1000 里地調査など、 NACS-J で主体的に取り組む事業に関連した必要な 事業を企画提案し、受託するようにしています。

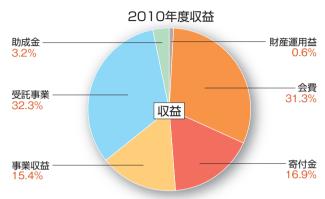
事務局運営事業は沼田眞賞の授賞式および記念シン ポジウムの開催や基盤整備、事業共通は事業全体にか かる人件費や通信運搬費などの費用を計上していま す。

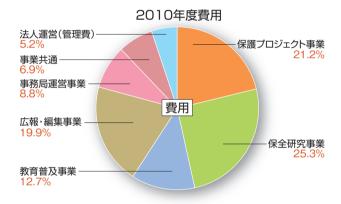
■ 基本財産

右の表には出ませんが、公益財団法人としての基盤 強化のため、基本財産を3000万円増額しました。

2010年度決算・事業報告、2011年度予算・事 業計画の詳細は、NACS-J ウェブサイトに掲載して います。どうぞご覧ください。

2010 年度の決算





		1	
科 目	2009 年度決算	2010 年度決算	2011 年度予算
収益合計	¥272,076,768	¥265,279,220	¥270,510,000
財産運用益	¥2,859,068	¥1,662,701	¥1,720,000
会費	¥84,303,580	¥83,061,933	¥85,000,000
寄付金	¥43,256,347	¥44,927,062	¥47,300,000
事業収益	¥38,582,116	¥40,735,539	¥40,330,000
受託事業	¥90,158,344	¥85,800,918	¥82,200,000
助成金	¥10,816,000	¥8,474,000	¥13,860,000
雑収益	¥2,101,313	¥617,067	¥100,000
費用合計	¥291,957,082	¥290,637,981	¥308,326,000
重点事業			¥5,060,000
保護交渉事業			¥3,500,000
保護プロジェクト事業	¥54,996,364	¥61,774,192	¥62,600,000
保全研究事業	¥87,589,009	¥73,430,470	¥63,821,000
教育普及事業	¥37,915,360	¥36,855,527	¥42,431,000
広報・編集事業	¥44,792,379	¥57,728,178	¥65,458,000
事務局運営事業	¥11,273,528	¥25,659,072	¥21,012,000
事業共通	¥34,133,750	¥20,165,897	¥26,807,000
法人運営(管理費)	¥21,256,692	¥15,024,645	¥17,637,000

*今回より、公益法人会計基準に合わせ、正味財産増減計算書による決算としています。

活動クローズアップ

草芙美代・植原彰・上原絹江・上原

郷司正代・幸田辰雄・光田道雄・河

三・グリーンダイアモンド・栗林淳子

リンクス㈱・植木明・植木憲一・

ご寄付ありがとう ございました。

総額3991万3210円

いおい損害保険㈱・愛徳カルメル

田浩司・岩部良子・岩見玉子・ウィ 井邦浩・伊禮洋代・岩井満知子・岩 伊藤裕志・伊東夕子・井野勝行・今 伊藤喜世子・伊藤久美子・伊藤総平・ 石渡孝行・泉佳子・泉文宏・伊勢采 由和·石川晃一·石田清明·石月芳夫· 田和枝·池田商店·池本桂子·石井 嵐敏文·池浦典子·池側恵美子·池 光彦・新垣清涼・荒川太郎・荒川日 部明廣·新井苑子·新井正樹·新井 リカンファミリー生命保険会社・安 野政栄・朝日新聞名古屋本社・浅見 省二・赤沢美恵子・赤羽ユリ・赤間 夫·伊東昭代·伊東要·伊藤喜久代 萌子・礒村シナ・磯村泰正・市野和 紘一・飯塚友康・五十嵐東吾・五十 富士子·安生智·安藤智佳子·飯塚 出子·荒木恭仁子·有川澄代·安斎 アフラック日本社社員厚生会・アメ 志・足立高行・㈱アップルファーム・ 賢治・アジレント・テクノロジー㈱・ 泰子・秋田あや子・秋山喜久男・浅 修道会鳥取修道院・青木知子・青戸 アジレント・テクノロジー㈱社員有 勝・国森美香・久保田恵子・久保田 草柳誠・工藤勝政・國武洋子・國庸 ㈱·清末幸久·COPPO·草野恭子· O-NT・キユーピー㈱・共同印刷 道子·熊切保·熊倉早質子·熊代昌

野仁・河端ユニ子・川南仁・河村節あき子・川廷昌弘・川那部浩哉・河島治代・川嶋正勝・河添寿子・川田島治代・川嶋正勝・河添寿子・川田小男子・川北秀人・川口安佐子・川田の人雄・川岡千里・川勝史朗・川河合久雄・川岡千里・川勝史朗・川 金丸文昭・加納弘子・カフェ スーパー 嘉子‧加治谷和夫‧柏木喜美子‧片川晶子‧垣内成子‧葛西幸枝‧葛西 司・黄之瀬健志・木原忠男・木原奉文・ 眞幸·木嶋恵子·北山順子·木下武 アリーナ研究機構・神林敦子・菊地子・河本みね子・勘川捷治郎・環境 沢良子·河合明宣·河合斌·川合哲郎 行·金山陽子·金子博子·金久由美子· 健二·加藤俊哉·加藤幸子·金谷道 野和子・片山俊樹・勝山鍈之・加藤 見寺公一・尾山洋子・折口晴夫・加 野寺史花・小畑徳彦・小原隆史・小 鬼塚隆子・小野利恵・小野知洋・小 博明·大野世津·大野泰一·大林純子· ティレゾナント㈱・㈱エヌ・ティ・ティ 木村直代・GALLERY ART P レーサー・上田志朗・神谷省司・唐 子・小山内司・押川たか子・小田邦矩 小川朱実・小川一雄・小川治作・小 大牟田一美・岡陽子・岡田周子・緒 太田慶子・太田毅・太田増江・大槻 弥·大河内典子·大坂知子·大城大· 県自然観察連絡協議会·大内紘三· 梅崎博敬・㈱エスアイ・エヌ・ティ 至·内田惇子·内山秀二·宇野木早苗 木哲・奥出雲病院・小倉淳・尾崎尚 方剛・岡田好彦・岡野弘明・岡本生 大川智子・大久保多加男・大久保奈 エンジェルフラワー833・遠藤浩 ・データ・榎田基明・えむカフェの会 · 遠藤弘 · 狼森 · 大石久雄 · 大分 郎・小西祐伸・個の地平・小林喜美 合·国画会·国民公園協会·児島英 · 小島弘之·後藤清美·後藤賢 |

木信明・鈴木英雄・鈴木昌臣・鈴木忠・鈴木明美・鈴木和子・鈴木忠司・鈴忠・鈴木明美・鈴木和子・鈴木絹子・ 平利二·田植豊実·高石昭·高木伸季 仙波一平·相馬健次·曽我日出夫 正規·鈴木美紀子·鈴木保雄·須藤 海・杉山結美・助川たみ子・鈴木昭 り子・杉江千月・杉本玄海・杉森広 菅根衛・菅野暁・菅谷勝芳・菅原る 神保恵美子・末吉典子・菅沼正子・ 油㈱・城山登・新庄秀克・新城美紀 庄司博之・正村静子・昭和シェル石 也·下村光子·下山悦子·正阿彌崇子· 優子・下江聡美・下田和広・下村恒 水隆尚・清水忠信・清水雅典・清水 清水和男・清水精子・清水仙子・清 枝·島田久実子·島田直明·島田裕史· 田耕児·柴山裕子·島崎洋·島津幸 堂 花椿基金·下程泰·篠﨑雄彦·篠 ゆかり・鹿間信弘・㈱資生堂・資生 ㈱CFP・シェル・塩田正子・塩原 沢田佳久・寒川麻利子・三ノ宮英幸・ 藤崇倫·佐藤充郷·佐藤友明·佐藤 佐藤明子・佐藤友于・佐藤晋一・佐 笹輝美·笹内秀仁·佐々木和善·佐々 子·榊久美子·相楽悦男·佐久間志穂 井道子・堺沢清光・境野寿・阪尾朋 斎藤幸男・斎藤正之・斎藤幹夫・酒 近藤美弥子・斎木智子・齋藤けさよ 小山準之介・小山千郁・近藤起久子 男 · 小林美珠 · 小林雄一 · 小松祐二郎 洋一·髙畑知子·田上真一朗·田上中 曽我基行·第一生命保険㈱·平良修 妹尾瑶子・セブンヨーク・㈱千趣会 ムin西和賀2010·関治·関尾憲司 敏・清田保之・生物多様性フォーラ ㈱サニクリーン・猿田孝一・澤井勝 花子·佐藤正美·佐藤資子·佐藤雪丸 木裕 · 笹子重治 · 佐竹陽子 · 佐々勝巳 佐久間憲生·桜井香緒里·櫻庭奈津美 瀧島真理子・竹口千代美・竹田喜美 ㈱田上財務経営センター・滝石有紀 高橋修一・高橋祥子・髙橋英・高橋

倶楽部·藤田和子·藤田重輝·藤田 フォルム㈱・深見弘・福嶋真人・福 平田小百合・民宿風蓮・㈱フォース 日比野祐久・平川拓洋・平田克紀人と組織と地球のための国際研究所 子·中部喜和·中村恵美子·中村忠年延·長沼光子·中野和代·中野葉 朋子・仲田由雄・中谷眞砂子・長縄子・中川キヨ子・中島小夜子・中田 田中伸枝・田中秀典・田中裕之・田 則·竹村正三·田島清利·田島由香 子·竹田秀栄·竹蓋三江子·武馬吉 永健二・福原卓也・藤井祐二・富士 博史・林田文子・原香澄・原剛・原 谷川博・畑勲・パタゴニア日本支社 橋本清・橋本吉子・長谷川悦子・長 名執義高·並木孝之·奈良譲·楢原蓁· 士・中村陽子・中村良二・長本三鈴・ 堂野前良子・時田真市・トライシー マンド倶楽部・寺沢康博・土井敏彦・ TAT・ディレクトフォース・㈱デ 土田隆恒・土屋俊幸・筒井和光・㈱ 子‧津久井誠‧津久井正幸‧辻博之‧ 合ぽけっと基金・中条康子・塚原睦 耕作・千葉美千代・中外製薬労働組 中靖枝・田邊光彰・谷村直明・田村 宏・田中和作・田中重樹・田中しづ子・ 里・田代英治・忠地千代美・立岡英 ゼロックス㈱・富士ゼロックス端数 ツーアンドアソシエイツ㈱・㈱ピー 原田龍次郎・春山啓子・春山房子・ピー 島和子·原田修·原田一昭·原田哲志 濱野美菜子‧濱邊健三‧林信夫‧林 花岡美佐緒・濱崎定也・浜田昭文 ㈱パーパス・㈱博報堂DYインター 野沢民芸品製作企業組合・野村昌子・ ナチュラル・野上ふさ子・野川和三・ 村照雄・西脇留治・丹羽勇・㈱ネオ 古屋短期大学現代教養学科阿部ゼミ・ 長屋貞吉・中山一藏・中山賀央・名 プス・鳥居進・内藤よし胡・中井節 ト・樋口直人・久野綾子・久光幸子・ ソリューションズ・橋幸子・橋本育・ 一階堂幹夫・㈱ニコン・西浩孝・西 若藤正典・若山治憲・脇田信雄・脇 本秀行·和田和子·和田晴美·渡辺

次智浩・矢内友理子・谷中美穂・柳安野眞二・矢田公児・矢田梨香・矢 和雄・宮岡勉・宮木良博・三宅俊司田径子・南志津子・壬生博昭・宮内 和・㈱りぶはあと・㈱ルミネ立川店 光男·依田幸男·米村邦稔·米山富 よしだコマース㈱・吉永明弘・吉村 岡敏彦·吉岡陽子·吉田正人·吉田勝· 油利可奈·横田和夫·吉居博文·吉 ま―る治療院・湯川百合子・湯田富岳 本由香里・矢本恒雄・由比進・ゆい山本勝久・山本志津恵・山本曻・山 望・山崎賢治・山田弘・山ノ下眞子・ 澤愛子・簗取圭子・矢野川文子・ヤ 岡直美・㈱ヤギ・谷島光治・安井宏 森嶋剛史・森常正資・森山真久・諸 山昌子・㈱メディアネット・目羅敬一・ 節子·宮原恒雄·宮本美織·宗形啓子· 達郎・宮田典正・宮原さゆり・宮原 崎継雄·宮﨑安代·宮澤恵子·宮田 法律事務所·三宅豊·宮崎孝子·宮 三井映代・三石政俊・満岡信子・満 駅にしあいづ交流物産館よりっせ・ 浦敦·三上眞喜子·水田哲生·水谷覚 間宮八枝・丸山秀邦・丸山芳子・三 圭子·松本美千代·㈱松屋·松屋久也· 島大・松村紀代子・松本勝宏・松本 松尾信・松坂孝太郎・松崎暉子・松 間瀬美子·町田恵子·松浦佐知子· 田和治・牧野立子・正岡亨・増尾孝・ 堀川美穂・堀越薫・本田都南夫・前 浩・細川幸勇・堀三智子・堀内和美・ 眞智子·古澤賢彦·古髙利男·古間 男・若尾男・若槻智恵子・若林広志・ 一·安井美津枝·安岡幸彦·安田建郎· 木風舎・望月政雄・茂又述史・森功 村上恵司・村上洋子・村嶋照等・村 水野信彦・水原稔・三谷親子・道の 木達也・風呂田利夫・星徳夫・細川 六重部篤志・㈱口ペライオ・和歌和 フー㈱・矢部セツ・山形将洋・山 一.森井節子.森川友生男.森崎典子.

2011年度の事業計画

暮らしに根づいた生物多様性の10年を築いていきます。

3月24日に開催されたNACS-J評議員会・理事会で2011年度の事業計画(表)と予算(左グラフ)が決まりました。

昨年 10 月に名古屋で開催された生物多様性条約 COP10 では、生物多様性保全の新たな国際的な目標「新戦略計画 2011 - 2020 (通称:愛知ターゲット)」が決議され、また COP10 での市民からの提案を受け国連総会では、

2011 - 2020年の10年を「国連生物多様性の10年」と定めました。

これを踏まえ、NACS-Jでは、「生物多様性の道プロジェクト」を継続して実施します。本プロジェクトは、この10年で地域の暮らしに根づいた生物多様性保全を各地で実現することを目標とし、「愛知ターゲット」達成にも貢献したいと考えています。

2011 年度は、策定が急がれる「生物多様性地域戦略」づくり促進のための重点事業を実施します。

また、生物多様性を地域に根づかせるために、次の3つの重点方針を立て、すべての事業を実施していきます。

● 市町村への普及啓発を行う

地域が主体となった地域づくりの 一環としての生物多様性保全となる よう自治体(市町村)への普及啓 発を行い、地域住民が参加できる 保全活動の実践、提案を行う。

② 農林漁業、土木など地域産業と 一体となった実践事例をつくる

生物多様性保全は「環境分野」に限るものではなく、健全で持続可能な農林漁業を支え、保全型の土地利用や土木は持続可能な地域経済や産業をつくるものであることを実践で示す。

③ 前述**❶** ②の主旨についてのアピール、発信を行い、社会的関心を高める

2011年度の主な事業

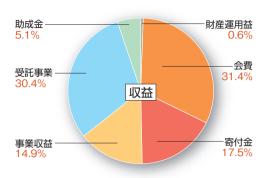
2011年度の王な事業		
重点事業	「生物多様性の道プロジェクト2011」 生物多様性国家戦略への提言/地域戦略シンポジウムの 開催/地域戦略づくりのヒント(行政向・市民向)の作 成/市町村と協働での市民参加型戦略づくりの実践	
保護交渉事業	保護交渉 国の施策への有効な多様性保全策の組み込み/保護地域 化困難地の保護地域化の促進	
保護プロジェクト事業	海域の保全 日本の沿岸管理のあり方の提言/辺野古・大浦湾と泡瀬 干潟の保護活動	
	現場の保護問題解決支援 風力発電所建設問題/沿岸域開発問題/アセスへの提言	
	AKAYAプロジェクト 生物多様性保全型環境管理モデルづくりと実践	
	保護地域の問題解決 小笠原/尾瀬	
保全研究事業	里やま保全研究 モニタリングサイト1000里地調査/市民調査の促進	
	SISPA (戦略的保全地域情報システム) 重要保全地域の抽出と保全策の提言/生態系サービスモニタリング/生きもの情報館の運営/ふれあい調査	
	照葉樹林保全研究 綾の照葉樹林プロジェクト/大隈照葉樹林調査	
	愛知ターゲット基盤整備 IUCN-J での資料収集 / IUCN アジア地域フォーラム / CBD SBSTTA での情報収集	
教育普及事業	自然観察指導員の養成 全国各地での講習会の開催/研修会の開催(コンサベーションプランナーほか)/メールマガジン配信	
	自然しらべ2011「チョウの分布 今・昔」 全国一斉自然かんさつ会「チョウ」連動	
	企業人対象の自然観察会の開催	
	PNファンドの運営(自然保護助成基金との共同事業)	
広報・編集事業	広報事業 広報素材の作成/企画寄付、募金の実施	
	次世代へ生物多様性を伝えようキャンペーン (仮称) 「次世代へ伝える宣言」(仮称)募集/会員のつどいの実施	
	会報『自然保護』発行(年6回)	
	ウェブサイトの運営	
事務局運営事業	公益財団法人基盤整備 諸規程の策定/財政・経営基盤整備	
	沼田眞賞(牧田基金事業)の運営	

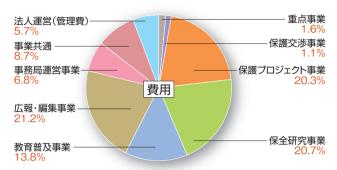
活動クローズアップ

2011年度の予算

2011年度収益=2億7051万円

2011年度費用=3億832万円





*金額詳細については、24ページの表を参照。

フォーラム「地域を知るコツ | in 沖縄 開催!

~生物多様性地域戦略につながる第一歩~



地域を守るためにはまず現状を把握することが必要で す。自然を把握する調査には主に行政や研究者やNGOなど が行う大規模・広域的な調査と、地域の市民が地域密着で 行う調査の2通りの方法があります。どちらも大切なデー タとなりますが、特に市民調査の結果が行政の計画などに 活用されることは少なく、今のままでは市民が地域戦略な どの計画に参加することも難しくなっています。

今回のフォーラムでは、大規模・広域調査と市民調査そ れぞれの特徴や意味を掘り下げ、市民と行政が対話しなが らつくり上げていく生物多様性地域戦略につながる第一歩 としたいと思います。皆様のご来場をお待ちしています。

第1部では市民調査やNGO調査にかかわる研究者やNGO スタッフなどに、さまざまな調査や取り組みの実例を話し ていただき、第2部では来場者にもご参加いただくグルー プディスカッションを行う予定です。

<開催要項>

スピーカー:中野義勝 (琉球大学)、権田雅之 (WWF ジャパン)、開発法子(NACS-J事務局長)など

場所:沖縄大学(那覇市) 2-306教室

http://www.okinawa-u.ac.jp/shisetsuAccess.php 日時:2011年8月6日(土)13時~17時

定員:150名

主催:NACS-J

共催(予定):沖縄大学地域研究所、沖縄生物・多 様性市民ネットワーク、WWFジャパンなど

申し込み:氏名、連絡先、所属を明記の上、下記ま

でお送りください。

NACS-J保護プロジェクト部(安部)

FAX: 03-3553-0139 Eメール: abe@nacsi.or.ip

※このフォーラムは平成23年度環境保全機構地球環境基金の助成を受けて開催されます。

、は出番を待っている



アートは、雑誌の表紙、カレンダー、Tシャツ、 エコバッグ等…。次なる出番を待っています。

選ばれて活躍するアートたち

アートビリティは「才能に障害はない」をキャッチフ νーズに、25年前、障害者の中からプロとして活躍 できるアーティストを育て、彼らの所得支援と自立を 促すことを目的として発足した事業です。

全国のショップにて発売中の"インフィニストリア"オリジナルバッグ 平山こうた『ブルースマン』 祐谷敦志「しろくま」 企画・販売 株式会社 アスプルンド

作品をお使いになりたい方は…

●アートビリティに登録されている作品はホー ムページで公開され、すべて閲覧・検索が できます。「<mark>アートビリティ</mark>」で検索!

http://www.artbility.com

-トビリティ事務局

TEL: 03-5988-7155 FAX: 03-3953-9461 Eメール: info@artbility.com

社会福祉法人東京コロニ・

〒165-0023 東京都中野区江原町2-6-7